

知的に発達が遅れがある児童に対する概念学習への試み

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
竹井 千恵

本研究では、知的に発達が遅れがみられる児童 1 名に対し、今後のコミュニケーションを良好にするために、概念学習を行なった。概念学習を行なううえで、対象児がどの段階までの概念を獲得し、どのようなところから困難が生じているのかを知るため、まずは、基本的な概念とされる『新版 K 式発達検査』の中から、「大小比較」「長短比較」「重さの比較」「色の名称」「数選び」「左右弁別」の 6 項目、および物の概念の獲得に関する「分類」1 項目を加えた 7 項目と複数の項目からなる課題を構成したベースライン課題をおこなった。そして、7 つの課題のうち、正反応率の低かった「重さの比較」「数選び」「分類」の 3 項目に着目し、それらの課題に対し、対象児の行動特徴などから考慮したうえで、介入として確認作業を導入し、訓練課題をおこなった。ここでいう確認作業とは、対象児の選択した刺激が妥当か否か、取捨選択するための補助的な役割を担っている。この確認作業を取り入れることにより、訓練課題のすべての項目において正反応率を高める結果となった。その後、訓練課題と同じ手続きで介入なしのプロープテストに対しても、あるいは、訓練では用いられていない具体物での般化テストに対しても、3 課題すべてにおいて 90% 以上の正反応を示した。以上の結果から、確認作業は対象児にとって、概念獲得を促進するために効果的な方法であった。ゆえに、本研究でおこなった課題に対してのスキルを獲得といえる